

日本に産するカネコメツキ類の属名

大 平 仁 夫

ŌHIRA, H.: The Generic Name for the Japanese Elaterid
Beetles of the So-called *Gambrinus*

日本に産するカネコメツキ類のうち、前胸腹側板の後外角部のところが湾曲して鉤状になったものに、従来 *Gambrinus* 属が用いられている。 *Gambrinus* LECONTE, 1853 属の基準種は、米国ジョージア州地方から記録された *Elater armus* SAY, 1836 (= *Elater stigma* HERBST, 1806) (図 B) である。一方、本属によく似た属に *Limoniscus* 属がある。 *Limoniscus* REITTER, 1905 属の基準種は、ヨーロッパ地方に分布する *Elater violaceus* MÜLLER, 1821 (図 A) である。これら両属の類縁関係については、大平 (1954) が若干ふれている程度で、日本の種にどの属名を適用するべきかという問題については、深く検討されることなく今日にいたっているように思われる。

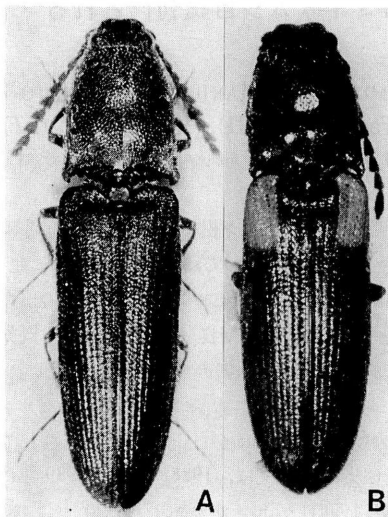


図 1. — A. *Elater violaceus* MÜLLER, 1821. — B. *Elater armus* SAY, 1836.

筆者は最近、これら両属の基準種の形態を検討することができたが、一般形態や、属の重要な特徴の一つである前胸腹側板の後外角部の形態は、たがいにきわめてよく類似している。しかし、 *Gambrinus* 属の基準種の *Elater armus* の触角は細長く、第 4 節からの鋸歯も弱い。また、前胸背板の後外角部背面には、隆起線をまったく欠いている。一方、 *Limoniscus* 属の基準種の *Elater violaceus* の触角は短く、第 4 節からの鋸歯は顕著であるし、前胸背板の後外角部背面には明瞭な隆起線を有する。

筆者は、これら両属がやや系統を異にする位置にあり、分類上はそれぞれを別属のものとして扱うのがよいと判断するものである。したがって、日本産の種には *Limoniscus* 属を用いるのがより正しいと考える。

文 献

大平仁夫, 1954. コメツキムシの属名について. *New Entomologist, Ueda*, 3 (2/3): 1-10.